

果菜類における効率的な天敵利用技術の普及

ねらい

高度技術支援課

ナスやキュウリ栽培では、ミナミキイロアザミウマやコナジラミの防除に多大な労力を要するとともに、それら害虫の薬剤抵抗性の発達から防除に苦慮しています。

一方、近年注目されている土着天敵タバコカスミカメを活用した防除技術が広がりつつあり、本県においても天敵温存植物(ゴマ、クレオメ等)による効率的な温存、増殖法が開発されました。

そこで、天敵温存植物の植栽を核とした土着天敵活用技術を生産現場に普及することにより、防除作業の労力軽減や薬剤費の低減、薬剤抵抗性発達の抑制を図り、持続的で安定的な生産を実現します。

活動地域・対象

地域：県内全域（徳島市、小松島市、阿南市、海陽町、吉野川市、阿波市）

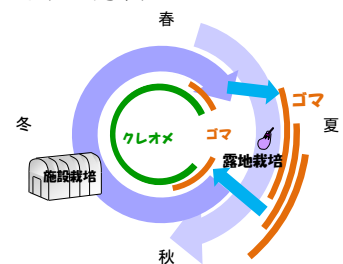
対象：ナスおよびキュウリ生産者

普及活動の目標

- 1 土着天敵タバコカスミカメを活用した防除体系をナスとキュウリの産地に普及します。
 - ・天敵温存植物（ゴマ、クレオメ等）の効率的な利用技術の普及
 - ・土着天敵を有効に活用するための農薬使用方法の普及
- 2 防除労力軽減や薬剤費の低減、薬剤抵抗性発達の抑制を実現します。
 - ・土着天敵の活用によるアザミウマ等の防除回数の削減、薬剤抵抗性発達の抑制

目標に向けた活動概要

- 1 実証展示ほの設置：土着天敵とアザミウマ類等の発生を調査し、効果を分析
- 2 成果の周知：講習会・研修会の開催とマニュアル・栽培暦の作成、配布
- 3 技術指導：講習会、個別指導、LINEの活用
- 4 天敵供給体制支援の検討会開催、個別指導



タバコカスミカメとその利用技術「ゴマまわし」のイメージ図



露地ナスの展示ほに植栽したゴマ



展示ほ農家との意見交換



天敵温存植物における天敵定着の確認

普及活動の成果

1 展示ほにおける実証成果

①露地ナスの展示ほでは、畝の端やナス株間にゴマを植栽し、施設ナスで定着したタバコカスミカメを移動することで放したところ、同虫はゴマで増殖し、その後ナスに定着しました（図1、2）。このことによって、ミナミキイロアザミウマの発生を抑制できました。

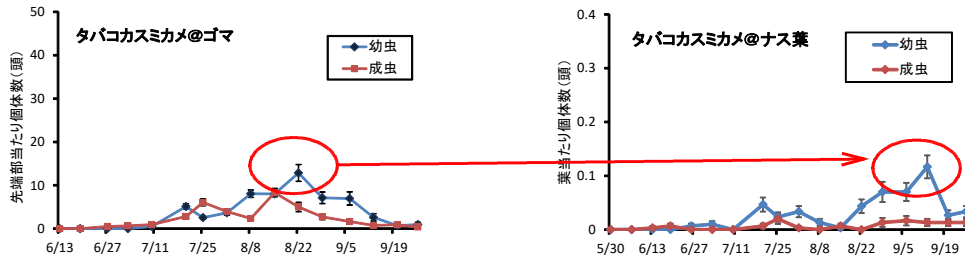


図1 ゴマにおけるタバコカスミカメの発生推移 図2 ナス葉におけるタバコカスミカメの発生推移

②促成ナスの展示ほでは、予めハウス内にゴマやクレオメを植栽し、露地ナスに定着した同虫を放したところ、増殖し、その後ナスに定着しました。このことによって、ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類の発生を抑制できました。

③促成キュウリの展示ほでも、上記②と同様の成果が上がりました。

④本技術の活用によりアザミウマ類等の薬剤使用回数が大幅に削減できました。



展示ほの結果報告会

2 成果の周知

講習会・研修会を開催し、作成したマニュアルや栽培暦を紹介することで、生産者や指導者へ技術を周知しました。

3 技術指導

展示ほの成果をもとに、講習会や個別指導で指導者や生産者の技術の向上が図れました。また、生産者数名とは、LINEグループ活用し技術交換を行いました。

4 天敵供給体制支援の検討会、個別指導

安定的な天敵の供給体制のあり方を生産現場において、支援することができました。

用語説明	ゴマまわし：タバコカスミカメが好むゴマ、クレオメを栽培圃場（施設）内に植栽することで、露地栽培と施設栽培を切れ目なく、同虫密度を温存・増殖する方法
------	---

今後の発展方向

タバコカスミカメを利用した防除技術は、ナスでは一定の規模に普及しましたが、キュウリでの取組は、緒について間がありません。このため、今後も産地間での連携や情報共有等を図り、天敵を活用したIPM技術の普及を推進します。

関係者からの声

○タバコカスミカメを利用してからは、アザミウマの被害が減り、秀品率が上がりました。

○天敵に影響の少ない農薬の選択で戸惑う時があるとの意見を頂いています。

農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660

tel：088-674-1922